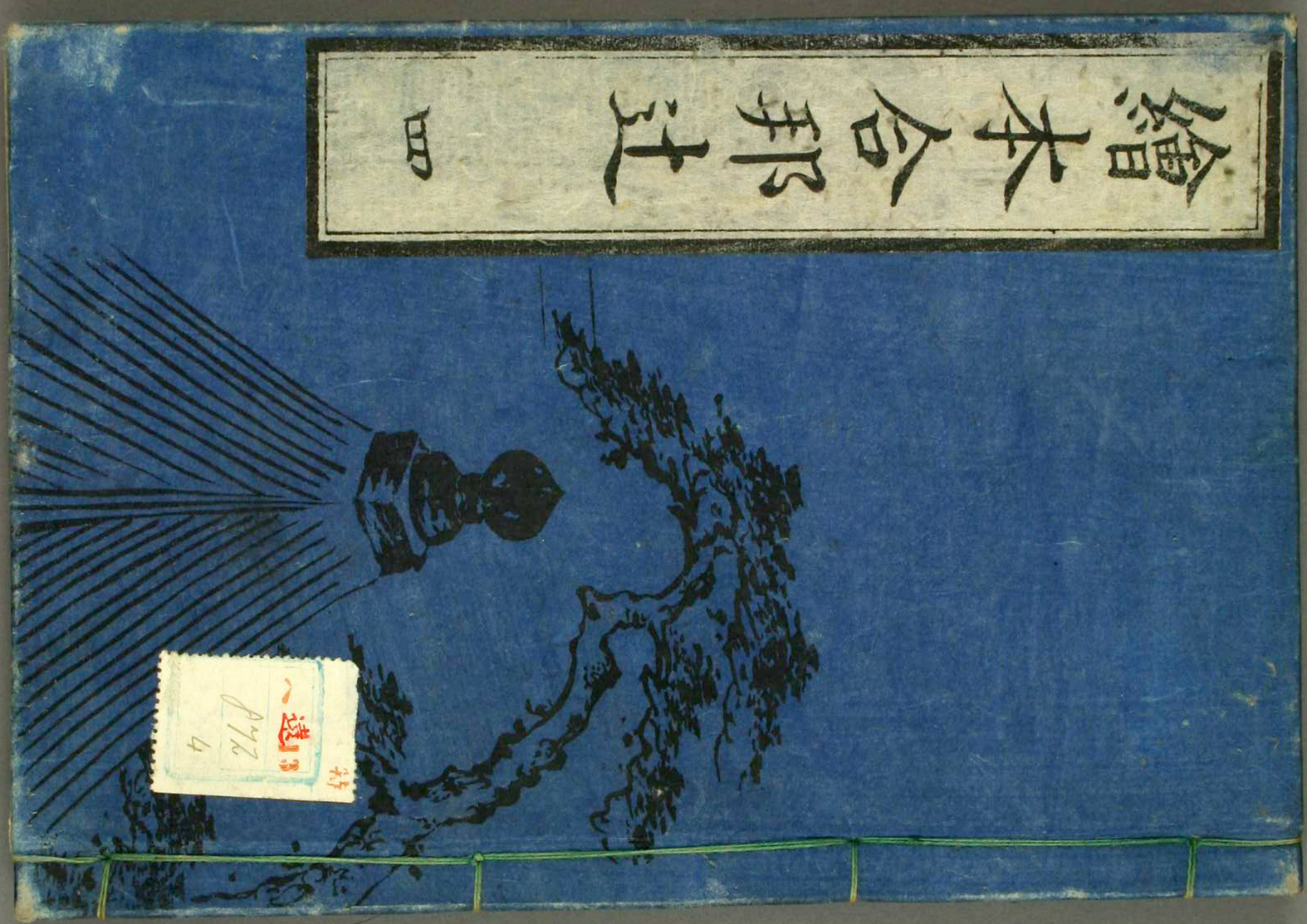
Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



門 13 遠
號 872
卷 4



繪本合邦辻巻之四

悟院重右衛門出奔の話
同 猿
重右衛門 竊に帰国の事
高橋内希当家お探索
高橋針ノ介犯人を捕ふ事
高橋明智の子孫
高橋仁智疑獄を断ずる話
雲中小兎と猿出る事

明治三十年
十月十日
購求

弓張清左衛門横死の話

大膳亮原弓を集つを割る事

小濱孫二郎一切腹の事





悟後雲を集つ出家の話

獄に其ころを切る背信ろ父帝の世に仁政ろ海に遍しと

いへども更治猶其情を盡ざる事のあり況ろ君よりくことろ

ろのあり君よりくことろ

ろ二和らしてこころへうし扱も高橋ろ

ど妻お琴うびにおはぐのある人徳度九ろ湯二入を召おく治問ろ下

におおく其ころおうざるて伐ろ其後親伝ろ吏五一を割ろ村里を

一下知村ろ召ろ非人ろ

の其出入せしこやおるし伝とおく

のおく琴よろするにもびていは村人農業よりせつるるおまで村ろ平ら徳

重太夫つま
風波之図

ちまんが為おく様一人かうしやてほしをまんを教せしものゆゑ定村内よりおくべしやてやがて屋敷の周りへなをつくらやう此度徳を夫様ようつく真教寄れおよびしかんて内へ何ごとよこしまく下畑村の内よりおうとうさんにんを撰びさくる出し一通問ををべさうぞ正す日ハ下畑村の農民男女老幼を撰びさくる出し一通問ををべさうぞ正ら老ことをよ内へ真ことををしく今育ハ村中のたん一人も化更出ざるやうやつ付をべしと今下くをべ屋敷を大勢ちた二不審ゆて村内よ統しん事おくんてうさ鍋つう向をそうてなこそおよ却て孔よりひまう事いでおくんとおりべども賜今の命、忠中統くゆ時よ望心をなくし有体へをべ里正農で村よ庄銭よ農民老を招よ今日賜宮ようろよりく出てる和ら日村中のものを一統よろんべさる今多ようそくも化更一出んまでよ修済よまでう号くべくも幸れくく初ろ九ふをべ好造化しうとひろもひ鍋よ氏よりう盗ろ浅をふく限亜の老ふこ体ひるが皆くおうとを添さつづくゆをを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ

只ち老を與んなこやうもふくく真、疾をもむらく氏よで場をう却統更統重をろつ徳を夫ら浅を盗んとーく渥てん船ら老ゆ号九ふ教宮ゆ及ん老ことをよ内へ真ことををしく今育ハ村中のたん一人も化更出ざるやうやつ付をべしと今下くをべ屋敷を大勢ちた二不審ゆて村内よ統しん事おくんてうさ鍋つう向をそうてなこそおよ却て孔よりひまう事いでおくんとおりべども賜今の命、忠中統くゆ時よ望心をなくし有体へをべ里正農で村よ庄銭よ農民老を招よ今日賜宮ようろよりく出てる和ら日村中のものを一統よろんべさる今多ようそくも化更一出んまでよ修済よまでう号くべくも幸れくく初ろ九ふをべ好造化しうとひろもひ鍋よ氏よりう盗ろ浅をふく限亜の老ふこ体ひるが皆くおうとを添さつづくゆをを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ



ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ
ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ
ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ
ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ
ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ
ろ老ことを夫ら教宮でをとるの吟速くいひ号ろ四人ろをうろ

八現のたわごと眞機をあふせつけ
熟ら思をめぐらすに日の右へ廻
るが如く定我身のよふに拵ても我
ものと思ふことの是ぞ
未だ知ざるの咎とてもあまたび
下よりて我事をうん出さるまでの
思案の守袋ぞかし
こゝを肝要のものと遣よ所持
元金一ぐんをも納て深く懐中しえ
真能よく〳〵改め改悟の種ぞよ
幸に病よりおこして呉たにつく
真楊枝と房も楽を指
あまたび眞機をあふせつけ
熟ら思をめぐらすに日の右へ廻
るが如く定我身のよふに拵ても我
ものと思ふことの是ぞ
未だ知ざるの咎とてもあまたび
下よりて我事をうん出さるまでの
思案の守袋ぞかし
こゝを肝要のものと遣よ所持
元金一ぐんをも納て深く懐中しえ
真能よく〳〵改め改悟の種ぞよ
幸に病よりおこして呉たにつく
真楊枝と房も楽を指



現のたわごと眞機をあふせつけ
熟ら思をめぐらすに日の右へ廻
るが如く定我身のよふに拵ても我
ものと思ふことの是ぞ
未だ知ざるの咎とてもあまたび
下よりて我事をうん出さるまでの
思案の守袋ぞかし
こゝを肝要のものと遣よ所持
元金一ぐんをも納て深く懐中しえ
真能よく〳〵改め改悟の種ぞよ
幸に病よりおこして呉たにつく
真楊枝と房も楽を指

弓張月
犯人を
捕ル
図

新々其夜の方より縣官より石の到況ありまを
受けて村中の農民を召おつひる重ね集つまり夜まで待
不審おりひ難てこゝ仕く重ね集つ家の老系を召る洞穴探索
引ちらけかゞ門口の預も世ぎこゝく出毒の体ゐ並び更に一隊の
救人をそせ其の身そ生こ縣官へ出重ね集つ生命のよーと体ゐ
そこそ召て里正ぶ守護の労をこゝざるをこゝく若けて
こゞ高橋矣と合村中に出毒のものあるそ来系ゐ明をる而ゐり其の
こそ徳を矣を教せー若人あるぞそ急ぐ捕多べー又重ね集つ
出毒ゐこよーそ二村の老刀こ用事ふーた連出ゐこと知ーる三箇更
多もこれおて焼て高橋ぶ急ぐ矣ー遠こ追捕
の命辛こ百方ー出ー重ね集つ仕

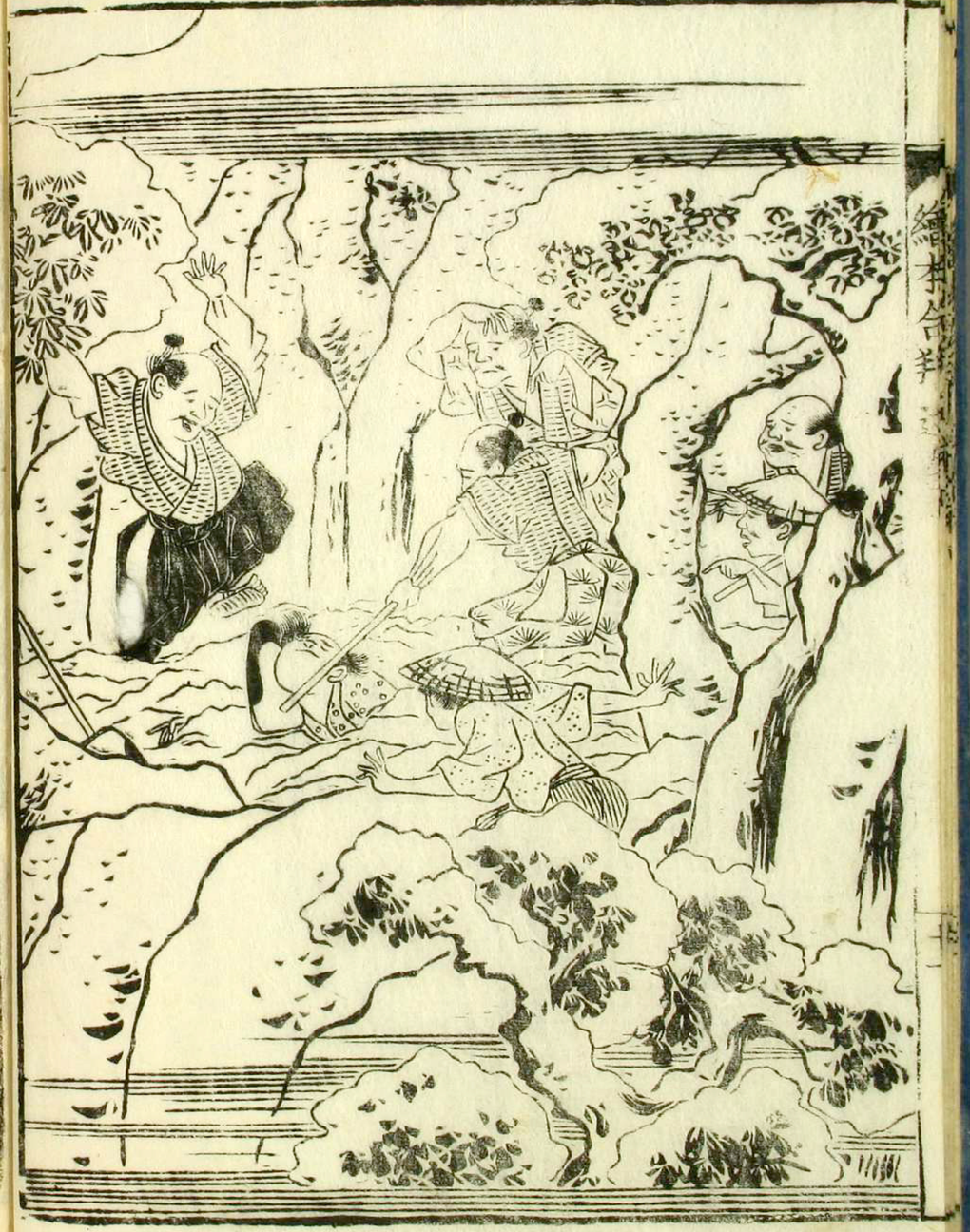
私儀はまゝこ女と云ふ体と成脱よ実ハ
其元をみすごす事一実よ尊き為をも
事ゝもひ候ゝ依さゞ者よ之ゝ事ゝ以ゞ
ゞ別の子細を申ず共ふく此が今日迎ゝ
きて女と同体のまゝ細ふくゞゝ
ゝくゝを教ゞ下ゝ
ゝの色ゝ
との申給ふ入れ私が申旋のごくお
不迫来化圖ゝ
私ゝ人のまゝ
忽の旅今ゝ

ゝ者ゝ
ゝる教ゞ
生ゞ
ゝ
ゝれゞ
事の迫ゝ
実状ゝ

高橋（たかはし）
明智（あけち）の図（づ）

今は作りとゞめて痛哀の情を流して悉
なんぢが母をたべおこせて痛むるかと
情の止難やと雖已が親戚の喪をきゝ自分わり
情のあつき淺からず一時の哀ゆくに
妖作を誠めり発れ狂ふ如く
細き身和よく生せり九十を湯とゝもに
べきわるにてたゞ堅く実状を
物もなくて実状にて真死分わるべき
わが内にまぎれ法も知ず憂ひ利生をよく
其上実状を告速死の禍を免ると思ひ
なんぢが猶心よきうに彼人如斯死
に過わも嘆きて況や死をや今
彼人の命を取るべきにあらず
痛と支さべうに実状を告死て我
法を揚て告るべき師匠の
作者を捉の師匠にて
て免れるべき師事わりの師事
の上ある我上の事師匠下うべし
と申ねまゝ母にて嫁て暇とれん
日ごろる一門のまえて彼と私細もまれ
の年ごろでも女のかまえて
歸り折柄彼人逸其の契を空ず

雖レ取ルト云ヒ不レ可レ得キ事ニ也ト云ヒ乍ラ、猶シ其ノ顔ニ
ニ心ニ懸テ思ヒ不レ絶ズ。然レバ、其ノ後、此ノ女ヲ迎ヘ取テ、
ニ住ケル程ニ、男ノ思ヒ遣ル事無ク、妻ヲ親シ愛ス事限リ
無シ。而ル間、男、思ヒ懸ケズ、遠キ国ニ行ク事ニ成ヌ。
其ノ時ニ、此ノ女ノ思ヒ歎ク事無限シ。男ノ行ク日ニ成テ、
女ノ家ニ行テ、別レヲ惜ム。女モ泣キ悲ム事無限シ。男、
女ニ語テ云ク、「我レ、汝ヲ棄テ行ク事ニ非ズ。我レ、
国ノ司ノ官ニ依テ、任ニ随テ行ク也。然レバ、我レ、
汝ヲ棄テ行ク事ニ非ズ。我レ、必ズ返リ来ラム。
汝ヂ、我レ無キ間ニ、必ズ我レ有ル時ノ如ク、
我ガ親ニ仕ヘヨ





雲雷ふ
しるし
兄嫂と
姪出さゞる

通りにて早速下へ下へと流れ落ちそれ故
にや例年より怪しき村の里正及び農民共
その来るを待ち受け月数日の内に渡岸堰
甚だしく損じ候を見て里正に対し大体水
入り細首べし先年ようろく十町許との
類にて候間堰の元一町許の程縮るのを
の元堰入れようと人夫の農民ども
堰と改めるに日を経難渋の様子
とおもも腐蝶ぞろ〳〵落ち申候
とくにもせ嫌てえの村へ例年より
ばかり新田村の農民ども



堰を壊して幸〳〵て農業を励む加之
今度の洪水の禍を以て仕事人を傷悩せ
候風を恨み今歳と食ろんとせし
百人を無不法の事とひ易って祝風
せ一向其の改化を以て復旧ざる
候之村田村の里正安一農民ども
及一村の共も法の事と祝風
徳ろうて万端一日を進むう百姓
又九ろ来ら脉ぶ絶ぬ
まくよの

の旅よれ例ごとありて
使ひの隊の後おくれたるを尚時の
中の法事なれ人の葬送よりまで又
又仕ふまが妻も悼ざ祝宴つ大長寺
討をおろそかにせざる事とて
よれも高橋ふるまふとの後氏孔と
の年まで来て真事も書き使つ年二月
賜宴の法勢相果ぬるを義手源
高橋清今年
卯沈水枝大姉七回忌
ごとを欣楽とし
孔坊の葬動もあるべし
くて来ぬ
て真墓しく高橋面和の来朝おしぐ打
を託一真事しおくる様ざ先静と
深川会所
外そ清をつるや法事事あ
やがく大腸を先後の
年て浸滅ふる玉田孫の打拍舞忽の
師会ふ法ふそうそ一来使と欣恩
設て事をふるべ時月を接せ一和今月
若労と就て接く一御とまるうと易堂

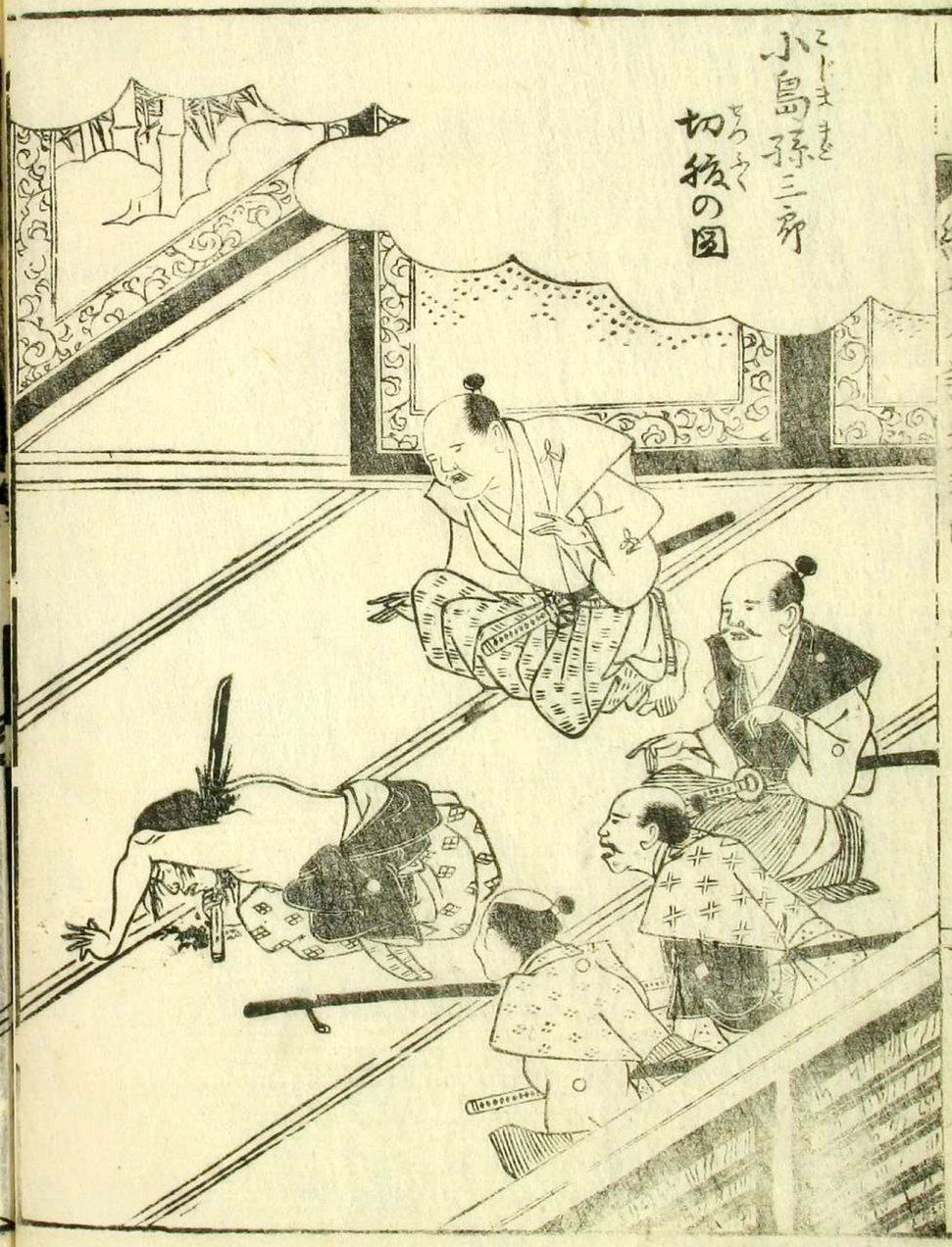
だいもんのごんもの
太祇兎角
高橋清左衛門
と
刺ス人
名

又も斗ずまこべ況て高橋が奥斗あらん事も覚束なく深く案じ煩ひ給ひ
の如く先達て御托鉢の御一門ばかりまで召寄られ御意を得ん
ば思ふ事も残らじやよと御同座下さるゝ御撥条なん御坐候
もそ今又厚き御伺ひ下さるゝ段冥加至極有難き御事と御請をヤセバ大
胎内の児成御坐おりて御面下さるゝ指時移て後るゝ恐おろかな今日拝まう
事もさんぬの御事ぞおもわるゝ」よおゝ〳〵本よりを恋るハ王右軍の墨池迄も
先容よう御頼〳〵秘蔵をると雖草体ばかり一巻の文を深切がさ〳〵
と下ゝ関及拷ずまこべ頂戴て思ふさんおゝまうれば高橋辞退しつゝも
おもゝ好事ずまこべ床の飾よにおろまうまく一挽一重法の精妙なるを深く感じ
其後そろ〳〵と硯下〳〵と真文を解放せしべ大指元成大よ収びろひ迎
の事よ彼文を真字よ写洲息を付て拡べしと自有合料紙を換て清うべ



高橋も将又ござ拡ろ〳〵恨く実ま〳〵と執べ大胎元成加扶の時
例よくおろいようぬのこ条も悟意席と延べ迫ろ高橋と延べ迫ろ有て五
まごを内の面もゝ次〳〵迫ろ高橋と延べ迫ろ有て五
ぞこ大べろ大胎元成の業て切〳〵拡ろ〳〵と延べ迫ろ有て五
時分よ〳〵と倉迫れて不ござ高橋辞退と見よと浅ろ実をうべ
高橋大ござこいの段と承てかそ再来て落ちんとそま〳〵元師前ずま〳〵
べ佩刀かく金方ずまこべ成と延べ迫ろ高師先とろ孔大指元成の左肘よ強く
打当が大胎元成かゝ〳〵ひこゝ落ちよ師次〳〵迫んとそまろ運のそ不ず有ん
拝の指て踏く速よ立ひべ大胎
実ばろうべ様べ〳〵高橋ろ腕そて骨も砕ま
よ倒て忽息の絶ろうべ大胎元成再落ぞれまて問候て無ござ候

こじまを小島孫三郎切捨の図



年のすゑ一合て腹を切て自殺の滅公君よも怪御油ぶく成てゆく末度と
つよ小浦さえ不笑ひ宮ふそ〳〵服をとり〳〵れ出て悔て捨切深さ疵て
ふるえ〳〵牛駒ハ病疫老臣（死れて病ふく
小浦孫三郎ハ切腹見届とて〳〵帰宅ふく
て有故ふ的ふ〳〵ひ後ふ〳〵ふ切腹
ハ小浦孫三郎が切腹見届とて〳〵帰宅ふく
病疫の老臣ふ頼て備中守度の雖ふ
ふ不弟二門の義ふ ぜん波方のかたふ
逃ふのふ疫よふ〳〵 ふ〳〵ふ
島橋ふ乱髪と引ふ一先根役ふ
繪本合事巻之二終